

## 2008 年 IFTA パリ大会参加感想文

みずほ証券（当時・新光証券） 中村克彦氏

2008 年 IFTA 大会（第 22 回大会）に参加した中村克彦さんの大会参加感想文です。同大会は 2008 年 11 月 6 日（木）～8 日（土）までの 3 日間、フランスのパリで開催されました。中村さんは同大会にスピーカーとして参加し、「日本の機関投資家の運用手法（テクニカル手法）」の中から、独自の分析手法である①複合分析の“合成チャート”（インデックス運用）、②アノマリー分析の“Uカーブチャート”（個別株運用）の実践活用プレゼンテーションを行い、好評価を得ました。

なお、中村さんが同大会の講演で使ったプレゼンテーション資料は、会員のページでご覧になれます。



21<sup>st</sup> ANNUAL IFTA CONFERENCE  
6-8 November 2008  
Le Meridien Etoile - Paris, France



## 2008 年 IFTA パリ大会に参加して

MFTA 中村克彦

このたび、11/6（木）～11/8（土）の3日間、“21<sup>st</sup> Annual IFTA Conference”（第21回 IFTA 年次大会）に参加させて頂きました。IFTA 年次大会は、2006 年のスイス大会に続き、今回で 2 回目の参加となりました。

会場であった“メリディアン・エトワール”は、メトロのポルトマイヨー駅に隣接し、少し歩けば凱旋門が見えるまさに“芸術の都・パリ”を肌で感じることのできる素敵なロケーションでした。

パーティでは、“セーヌ川のクルージングディナー”、“ルーブル美術館での貸切ディナー”と非日常的な体験をさせて頂きました。夜のセーヌ川から見えるライトアップされたエッフェル塔の美しさも然る事ながら、12 世紀に城塞として建設されたルーブル美術館の重厚な造りと雄大さに圧巻されました。美術館では、“ミロのヴィーナス”、“レオナルド・ダ・ヴィンチのモナリザ”など歴史的美術品や建造物を目の当たりにし、その“真髄の黄金比”の美貌に魅了されて参りました。

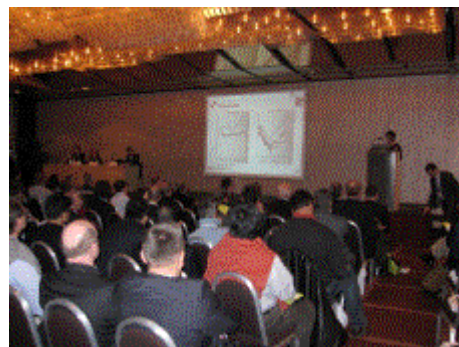
### 初日（2008/11/6）、WALKABOUT！

恒例のグループディスカッション形式の“WALKABOUT”からスタートしました。

- ① グローバルマーケット
- ② デリバティブ（オプション・ETF）
- ③ コモディティーマーケット
- ④ 効率的テクニカル手法
- ⑤ 今後の IFTA について

各参加者の自己紹介を交えながら、有意義且つ貴重な意見交換の場となりました。

各プレゼンテーションにおいては、大学教授、政府系エコノミスト、ヘッジファンドの FM・アナリストなどがファンダメンタルアプローチ・テクニカルアプローチの両面から、独自のストラテジーを続々と発表され、今後の運用において参考になる手法・分析が入手できました。



## 2 日目 (20008/11/7)、Ichimoku ブーム !

本間氏が行った“一目均衡表”のプレゼンテーションは大変好評でした。日本では定評ある“一目均衡表”も、欧州ではまだ応用的な部分は浸透しておらず、参加者に新鮮に映った模様です。発表後の質疑応答でも活発な意見が交わされ、欧州系投資家の間では“Ichimoku”ブームが起きつつあるようです。

## 3 日目 (2008/11/8)、ジャパンアワー !

私を含む NTAA 所属の 4 名で各 30 分、計 2 時間のジャパンアワーを発表させて頂きました。私は現在、機関投資家担当のエクイティトレーダーという立場から、「日本の機関投資家の運用手法 (テクニカル手法)」についてプレゼンテーションさせて頂きました。

- ① 複合分析の“合成チャート”(インデックス運用)
- ② アノマリー分析の“Uカーブチャート”(個別株運用)

の実践的内容をお伝えさせて頂きました。双方共に、“価格帯別出来高”から効率価格帯(真空地帯)に着目する手法です。

特に“Uカーブチャート”に関しては、“価格帯別出来高”を分析して“個別銘柄の株価習性 (Anomaly)”を紐解くと、株価形成時における人間の投資行動が長期一定期間で相似していることが分かり、結果的に U 字型の“対称チャート (Symmetrical Chart)”となる点に着目しました。その“U 字型形成”を先取りしてトレードに活用した効率投資法なのですが、一部の海外機関投資家より、「非常にシンプルで分かり易い」と高い関心をお持ち頂き、諸外国の個別銘柄に通用するか今後の運用の参考にしたいとのお声も掛けて頂きました。

また、毎年ジャパンアワー終了後に、NTAA より「日本テクニカル分析 (英語版)」を無料配布するのですが、配布部数を大きく上回るニーズがあり、海外投資家が日本のテクニカル分析に対する関心の高さを窺うことができました。現在の混沌としたマーケットの突破口になる運用アイディアを彼らは一生懸命模索しているように感じた一方で、欧米投資家の投資に対する貪欲さを改めて痛感しました。

金融市場にとって世界恐慌以来と言われる激動の 2008 年に、このような貴重且つ希少な経験をできたことは将来の大きな財産になると思います。現地で学んだことを活かし、今後の NTAA 活動に更にお役に立てるよう精力的に貢献したい所存です。この場をお借り致しまして、IFTA 及び NTAA 関係各位の皆様にご心より厚く御礼及び感謝の意を申し上げます。

